

# 研究研修部だより

## 研修報告

### 重複障害教育の専門性の向上に係る共通研修

5月23日(木)に紀南食事塾 宮田直美氏による「命を守り、発達を支える摂食指導～よりよく、おいしく食べるために～」の研修がありました。以下、参加された柿本先生、中村先生、井本先生、田端先生からの報告です。

#### [研修内容]

- ◆食べるということについて
- ◆うまく食べられないとは？
- ◆「食べる」メカニズムについて
- ◆「食べる」機能の発達について
- ◆摂食指導の基礎基本
- ◆悲しい事故を防ぐために

#### [共有したいこと]

- ・うまく食べられないことは危険と隣り合わせであること
- ・「食べる」メカニズムは、食べ物を認識(食べようと意識する)してから胃に収まるまでのこと
- ・口腔機能に合った食物形態、口腔機能を育てる介助でない場合、間違った食べ方を学ぶ(丸のみ、流し込み、上を向いて飲み込む等)
- ・口腔機能の発達を支えるために必要なこと  
「環境」「姿勢」「一口量」「食物を入れる位置」「スプーンの大きさや深さ」「スプーンの使い方」
- ・刻み食は、口の中でまとまらない(食塊にできない)ので、嚥下に問題がある場合、そのまま丸のみか吐き出すしかない食物形態であること
- ・食事介助をする際、食べ物を取り込もうと上唇が降りてくるのを待つ



## 共通研究①②

5月30日(木)に共通研究①を行いました。  
視覚支援センターの先生方にアセスメント方法「視機能検査、MNRead」の紹介をしていただきました。



#### ～感想より～

- ・全く知らない検査方法だったので知ることができて有り難かったです。
- ・実際にやってみるところを見ることがとても参考になりました。
- ・「数字にばかり注目するのではなく、子どもの小さな変化も見してほしい」に大賛成です。

6月27日(木)に共通研究②を行いました。講師は以前本校で勤務されていた中屋先生です。

「広 D-K 式視覚障害児用発達検査とその活用」について教えていただきました。



#### ～感想より～

- ・「見えないと何が分からなくて、何が分かるかを私たちが知っておく必要がある」という言葉にはっとさせられました。
- ・状況把握の大切さや、伝えることの大事さを聞いて実感しました。
- ・アセスメントの結果の見方(考え方)を知れ、次の手立てでどういうことが大事なのかがよく分かりました。